



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.9.30 No. 3866

12・1ダイ改、五五歳切り首切りの合理化は本格的に始まった

休日が増えても今以上の要員削減

十二・一ダイ改合理化は、「新たな十万人首切り攻撃」への突破口だ。このことを真正面から見すえ、闘いの体制を直ちに作りあげよう。

この攻撃の直接の背景は、年間休日数が九日間増えるにもかかわらず、「時短」要員を一切措置せずに徹底した合理化・労働強化によつてのりきろうとしていることにある。

言うまでもなくJRの勤務形態は、基本が隔日交替勤務(泊勤務)だ。しかし、休日数が一〇九日となると、一徹三名では、年間二二出面分の空白が生まれてしまう。つまり、一徹四名の要員配置が必要になってくると言うことだ。これは、運転士の勤務でも全く同じことだ。本来、千葉支社管内で二〇〇三〇名の要員増がされなければ現在の業務は回らない。

この十年間で半数以上が五五歳に

しかし実は、十二・一ダイ改を期して始まるうとしている合理化攻撃には、もっと大きな背景がある。

分割・民営化攻撃によつて五〇歳以上の仲間たちが根こそぎ首を切られたため、現在までは水面下に隠されてきた問題が、七年目を迎えていよいよ表面化しようとしているのだ。今年度

また、隔日交替勤務は、現在年間所定労働時間が二千時間を越えているため、一勤務当たりの労働時間も八〇分短縮されることになる。これも、拘束時間は今までどおりで、途中の休憩時間を増やすというインチキなやり方だが、それにしても、これだけでも本来要員の増配置が必要となってくるはずである。

ところが九月二二日の提案は、運輸関係が、合理化で▲六七名に対し、「時短」による増要素はプラス五七名、営業関係も、合理化▲六四に対し「時短」でプラス五二名。総体として、差し引き▲二二名の要員が削減されているのである。九日間の休日が増えるのに、逆に要員は増えないどころか減らされているのだ。これが今回のダイ改・「時短」の正体である。

を発端として、ちようど今後十年間の間に、現在のJR労働者の実に半数以上が、「原則出向」を強制されている五五歳に達するのだ。しかも、三年前から採用し始めたわずかな数の新採を除けば、三〇歳以下の労働者は全くない。会社としての存亡すら危うくなってしまうような歪んだ年令構成である。

これは、分割・民営化で、八年間も新規採用を中止し、闇雲な大量首切り攻撃を強行したことによる矛盾だ。この状況に直面し、現在当局が進めているのは、毎年、五五歳到達者が発生

過労死監獄と新たな大量首切りが始まっている！

結局、高齢者に対しては、「出向」や「退職前提休職」「勧奨退職」という名の首切り、残された現場には、「労働監獄」

のような殺人的労働強化がのしかかろうとしている。臨調・行革攻撃が開始された八三年当初四三万人であった職員数が、現在のJRでは一九万人。この十年間で要員数は半減以下にされた。しかし、「十二・一」を契機として始まろうとしているこ

労働者を過労死に駆りたてるJR東労組

ところが、JR東労は、このような職場の現状に全くふたをしたまま、当局と一体となつて「実感できる時短」「時短だ！休みだ！年休だ！」などと、労働者をペテンにかけ、過労死に駆り立てる宣伝にうつつをぬかしている。JR東労よ、自らが率先協力した労働強化によつて、自らの機関紙が、毎号毎号組合員の死亡通知のら列となつている現状を一体どう考えるのか！JR東労の十二・一ダイ改の「

した数だけ合理化・要員削減・労働強化で埋め合わせるという方式だ。つまり、根拠など何ひとつない、「人減らしのための人減らし」が強行されようとしているということだ。

とは、ある意味でもっと恐るべきことだ。まさに、「新たな十万人首切り攻撃」である。

このような現状が、すでにJR東日本だけでも、この六年ほどの間に、四八〇名の労働者が現職死亡し、七〇名の労働者が業務上の事故によつて殺されるという恐るべき状態を生み出している。「過労死監獄」「労災監獄」という他はない状態だ。

職場討議資料」では、「みなさん自身が自分たちの職場や現在の仕事の進め方をどのようにしていくのかを考え、解決策を見つけて下さい」というのだ。冗談じゃない！過労死ギリギリの労働強化を全てそっくり受けつけておいて、「解決策は自分で見つけろ」だ！一体これが労働組合か！JR総連を解体し、十二・一ダイ改合理化を阻止しよう！